

編集後記

財団法人 阪神高速道路管理技術センターは、昨年5月に満20周年を迎えました。これもひとえに阪神高速道路公団をはじめ、関係各位の皆様のご支援とご協力のたまものです。

昭和53年、当センターの創立以来、阪神高速道路の土木構造物、建築機械設備、電気通信設備に関する数々の技術的検討をさせて頂き広範囲に業務を展開してまいりました。

これら、公団の技術を対外的にアピールする目的から当センターの事業の一環として阪神高速道路公団監修のもと昭和56年に技報第1号が創刊されました。

技報では、公団の事業の伸展に伴い数々の新しい技術が紹介され、第15号では18編にもおよぶ論文が掲載されました。

バブル経済崩壊以後の経済不況の中、公団の建設事業の減少、特殊法人問題等公団・センターを取り巻く情勢は、大変厳しいものとなっております。

技報第16号では環境対策や合理化・省力化などといった論文が掲載されています。これは今日の社会情勢を反映しているものと思われます。

また掲載論文の内容も建設中心のものから、維持管理、コスト削減といったものに変化してきており、技報も一つの転機を迎える時代に入ったように思えます。

技報における建設部門の論文数は減少傾向にあります。巻頭言にもあるように公団の技術力に関する記録集として、また、公団の技術力を広く一般に知っていただくためにも新しい分野における論文も掲載し、今後も発行していきたいと思っております。

最後になりましたが、特別論文を執筆して頂きました国立舞鶴工業高等専門学校 白石校長、巻頭言を執筆して頂きました編集委員長の飯田審議役をはじめ論文執筆者および編集委員、幹事の皆様に深く感謝いたします。

(山口 博継 記)